

平城京左京七条一坊十六坪

発掘調査(奈文研第252次調査) 現地説明会資料

1994年10月1日

奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部

1. はじめに

この調査はスーパーマーケット建設に伴う事前調査である。調査は本年4月より来年3月まで5現場に分けて約11,000㎡行なう予定である。本調査に先立ち東一坊大路推定位置で東西42m、南北5mの調査を行なっている(奈文研第251次調査)が、調査区の西半分は沼のようになっており、奈良時代の遺構は確認できなかった。本調査区は第251次調査の南、約3,900㎡である。調査は7月1日から遺構検出をはじめ、現在も継続中である。

2. 遺構

調査区内の遺構は比較的まばらである。奈良時代の掘立柱建物や井戸、条坊遺構の他、平安時代の堰などを検出している。以下、その主要なものについて概要を述べる。

条坊遺構

六条大路北側溝 幅4～6m、深さ0.7m。

六条大路南側溝 幅約5m、深さ0.8m。溝の掘直しを行なっている。北東トレンチの東一坊大路西側溝との合流点では南北に広がっている。

東一坊大路東側溝 幅約3m、深さ0.3m。

東一坊大路西側溝 幅約7m、深さ約1m。溝はある程度埋まった段階で調査区の南端においてしがらみと土留め用の石を用いて堰止められ、東南に向きを変えている状況が確認された。また、調査区の南端や北東トレンチ南部では西岸に入江状に入り込む部分をもつ。平安時代には水田の用水路として利用されていたと考えられる。

建物1A 掘立柱建物、東西棟。桁行5間(9尺+8尺×3+9尺) 梁間2間(6尺×2)。東から2間めの棟通りには東柱の跡がある。

建物1B 掘立柱建物、東西棟。桁行5間(9尺+8尺×3+9尺) 梁間2間(6尺×2)。建物1Aとほぼ同じ位置で同規模の建物に建て替えたもの。

建物2A 掘立柱建物、東西棟。桁行3間(8尺×3) 梁間2間(6尺×2)。建物3Aと西妻の位置をそろえる。

建物2B 掘立柱建物、東西棟。桁行3間(6尺×3) 梁間2間(6尺×2)。

建物3A 掘立柱建物、東西棟。桁行3間(7尺×3) 梁間2間(7尺×2)。

建物3B 掘立柱建物、東西棟。桁行4間(7尺×4) 梁間2間(7尺×2)。建物3Aを西妻の位置を変えずに建て替えたもの。

建物4 掘立柱建物、南北棟。桁行2間(6尺)以上、梁間1間(8尺)。

建物5 掘立柱建物、東西棟。桁行2間(6尺)以上、梁間2間(6尺×2)。

溝1 深さ0.2m、坪の南北にある道路の心々間距離を南北に二分する位置にほぼ合う。建物1の東妻の位置で一旦途切れる。

溝2 □の字状を呈す。建物2Aの南にあり、東西の妻に位置をそろえる。

溝5 築地塀南側雨落溝で深さ0.4m、幅1m。多数の瓦片や風字硯が出土。

柵1 建物1の東にある南北の柵で、東一坊大路と朱雀大路の道路心の間を東西に4等分する東から1番目の位置にある。北限は溝1で、南は調査区外に延びている。

柵2 建物2Bの西妻の位置から井戸の西側まで東西に約25m検出している。

柵3 建物3の南で、東西に約26m検出している。

井戸 直径約2.3mの掘形をもち、0.9m四方の縦板組横棧どめの井戸枠をとこなう。

竪穴住居 縦横約4m、奈良時代以前のもので、底部がわずかに残るに過ぎない。

土坑 幅1.5m、長さ約5m、深さ80cm。漆を入れた奈良時代の須恵器や漆器片など多数出土。

土器埋納遺構 六条大路南側溝の南岸にある奈良時代後半の遺構で、合わせ口の土器が埋設されていた。

木棺墓 平城京廃絶後の遺構と考えられる。

3. 遺物

遺物には土器、瓦、土製品(土馬、硯)、木器(下駄、人形)、金属器(刀子、鉄鏃、銅銭)、炉壁(鍛冶あるいは鋳造関連のもの)のほか、木簡などがある。

4. まとめ

今回の調査で東一坊大路、六条大路双方の両側溝を確認することができ、条坊制の都市構造の復原研究に新たな資料を提供できた。東一坊大路は平城宮南辺の二条大路の位置で、その幅員(両側溝の心々距離)が23.7mであることが知られているが、本調査区東辺でもほぼ同規模の23.1mであることがわかった。一方、六条大路の幅員を確認した調査はなかったが、今回の調査によると14.5mであり、既に知られている他の大路より狭いことがわかった。

宅地利用の状況は坪を南北に二分する東西溝の存在がわかった。しかし、井戸が1基しか出ていないことを考え合わせると、細分化された宅地ではなかったのかもしれない。木簡はなんらかの官衙のものと考えられるが、出土状況からすると本調査区から捨てられたとは断言できない。本遺跡の性格に付いては今後の調査結果に期待したい。

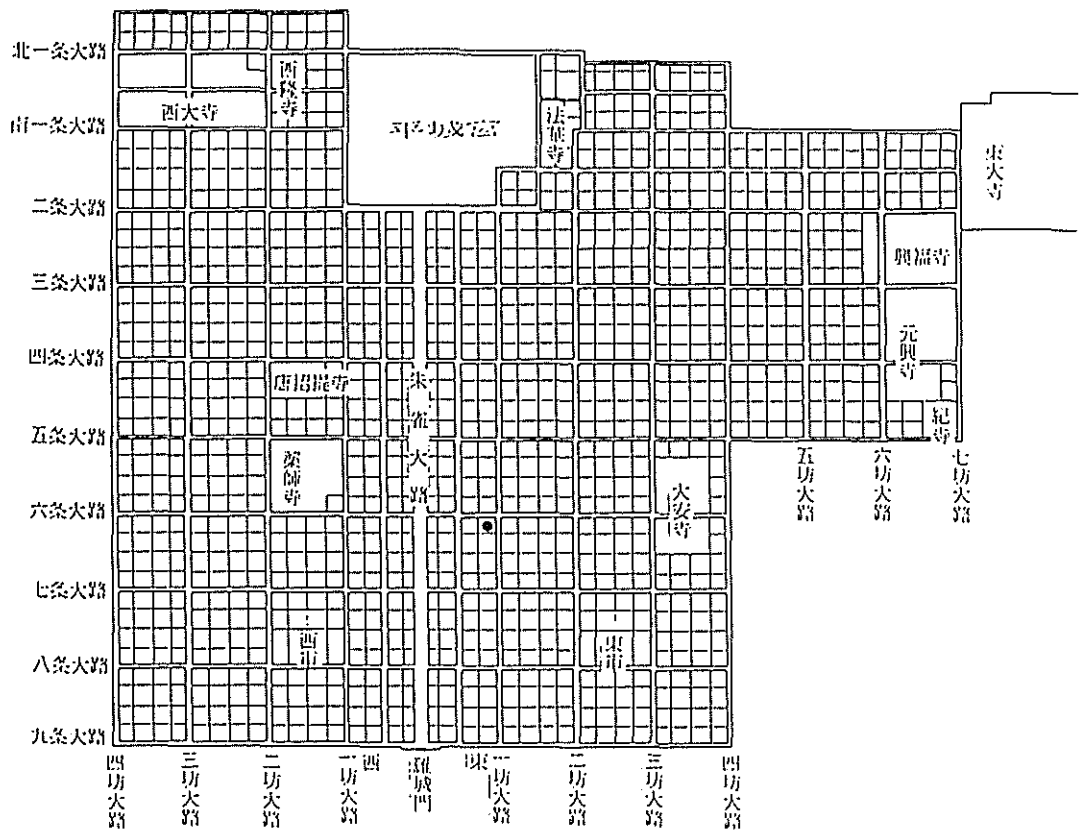


图 1 調査位置图

- 〔第二五二次調査出土木簡積文〕
- 東一坊大路西側溝出土木簡
- ・寶字七年六月諸司繼文 (96)・36・7 061
 - ・寶字七年六月諸司繼文 (題籤)
 - ・真高錢六百元 [田カ] 113・21・3 032
 - ・駿河國駿河郡柏原郷山 [田カ]
 - ・播磨國 [六カ] (67)・17・3 039
 - ・養錢 [六カ]
 - ・敦賀郡返驛戸 □人万呂□三斗 198・30・6 032
 - 白純年年□午午□ 091
- 六条大路北側溝出土木簡
- 茄子一斗 糖十□ (116)・(14)・4 081
 - 〔岐園寒〕 (39)・19・3 081

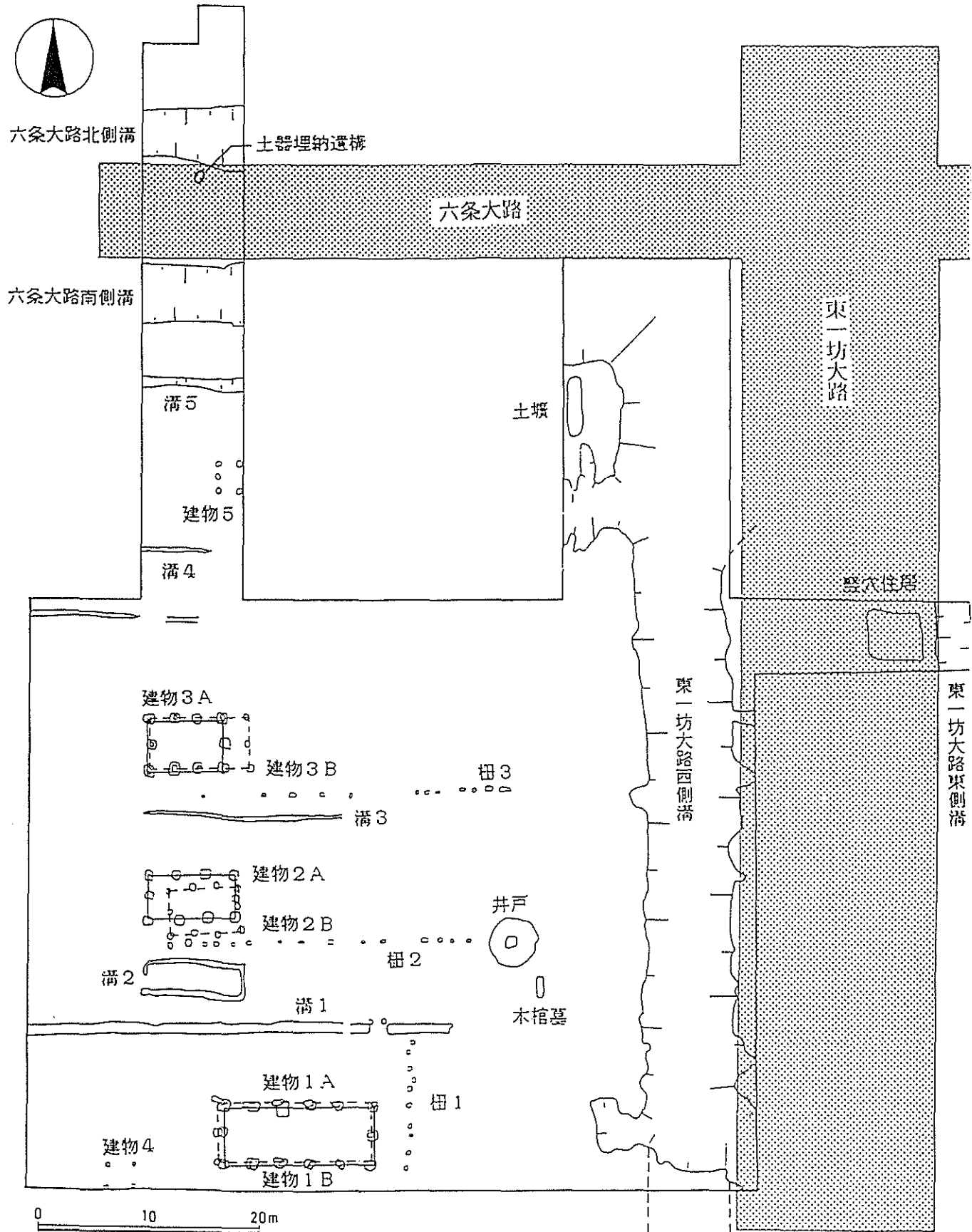


图 2 遺構模式图